

Asia Indicators

発表日: 2023年3月17日(金)

豪州・雇用環境は幅広い地域で底入れが進む(Asia Weekly(3/13~3/17))

～インド、幅広いインフレ圧力を受けてインフレ率は目標を上回る推移が続く～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹(Tel: 03-5221-4522/050-5474-7495)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
3/13(月)	(マレーシア)1月鉱工業生産(前年比)	+1.8%	+2.6%	+2.8%
	(インド)2月消費者物価(前年比)	+6.44%	+6.35%	+6.52%
3/14(火)	(フィリピン)1月輸出(前年比)	▲13.5%	--	▲7.7%
	1月輸入(前年比)	+3.9%	--	▲9.6%
3/15(水)	(中国)1-2月小売売上高(前年比)	+3.5%	+3.5%	▲1.8%
	1-2月鉱工業生産(前年比)	+2.4%	+2.6%	+1.3%
	1-2月固定資産投資(前年比)	+5.5%	+4.4%	+5.1%
	(韓国)2月失業率(季調済)	2.6%	--	2.9%
	(インドネシア)2月輸出(前年比)	+4.51%	+5.00%	+16.43%
	2月輸入(前年比)	▲4.32%	+9.74%	+1.27%
	(インド)2月輸出(前年比)	▲8.8%	--	▲6.6%
	2月輸入(前年比)	▲8.2%	--	▲3.6%
	(フィリピン)1月海外送金(前年比)	+3.5%	--	+5.8%
3/16(木)	(ニュージーランド)10-12月実質GDP(前年比)	+2.2%	+3.3%	+6.4%
	(豪州)2月失業率(季調済)	3.5%	3.6%	3.7%
	(インドネシア)金融政策委員会(政策金利)	5.75%	5.75%	5.75%
	(香港)2月失業率(季調済)	3.3%	--	3.4%
3/17(金)	(シンガポール)2月非石油輸出(前年比)	▲15.6%	▲16.0%	▲25.0%

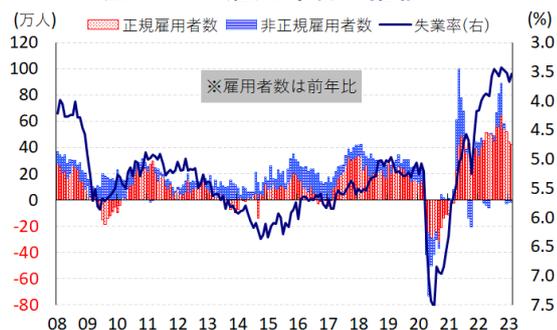
(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

【豪州】～大都市部のみならず幅広い地域で雇用が拡大、労働市場を取り巻く環境は改善の動きが続いている～

16日に発表された2月の失業率(季調済)は3.5%となり、前月(3.7%)から0.2pt改善している。失業者数は前月比▲1.7万人と前月(同+2.2万人)から4ヶ月ぶりの減少に転じており、雇用形態別では非正規雇用に対する求職者数(同▲1.2万人)のみならず正規雇用に対する求職者数(同▲0.5万人)もともに減少している上、中期的な基調も減少傾向で推移する展開が続いている。一方の雇用者数は前月比+6.5万人と前月(同▲1.1万人)から3ヶ月ぶりの拡大に転じており、雇用形態別では非正規雇用者数(同▲1.0万人)が減少するも正規雇用者数(同+7.5万人)の拡大が全体を押し上げている上、中期的な基調も拡大傾向で推移している。地域別でも、過去2ヶ月調整の動きが続いた最大都市シドニー

を擁するニュー・サウス・ウェールズ州や第2の都市メルボルンを擁するヴィクトリア州など大都市部で底打ちの動きが確認されている上、西オーストラリア州や南オーストラリア州などでも底打ちの様子が見え始めるなど幅広い地域で雇用が拡大している。労働力人口も前月比+4.8万人と前月（同+1.1万人）から2ヶ月連続で拡大するなど労働市場への参入意欲が改善していることを反映して、労働参加率は66.6%と前月（66.5%）から+0.1pt上昇するなど、全般的に労働環境が改善の動きを強めている様子が見え始める。

図1 AU 雇用環境の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

【インド】～生活必需品でインフレに一服感も、幅広くインフレ圧力がくすぶるなかで中銀目標を上回る推移～

13日に発表された2月の消費者物価は前年同月比+6.44%となり、前月（同+6.52%）から鈍化するも2ヶ月連続で中銀（インド準備銀行）の定めるインフレ目標（ $4 \pm 2\%$ ）の上限を上回る推移が続いている。前月比も+0.17%と前月（同+0.46%）から上昇ペースは鈍化しており、原油をはじめとするエネルギー資源の国際価格の調整の動きを反映してエネルギー価格が落ち着いた推移をみせているほか、生鮮品をはじめとする食料品価格も下落に転じるなど、生活必需品の物価上昇圧力が後退していることが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+6.05%と前月（同+6.10%）から伸びが鈍化するも、4ヶ月連続でインフレ目標の上限を上回る推移が続いている。前月比も+0.49%と前月（同+0.53%）から鈍化するも上昇が続いており、エネルギー価格の落ち着きを反映して輸送コストの上昇の動きに一服感が出ているものの、国際金融市場における通貨ルピー安による輸入インフレの動きを反映して幅広く消費財価格が押し上げられているほか、経済活動の正常化の進展を受けてサービス物価も上昇基調が続くなど、インフレ圧力がくすぶる展開が続いている。

15日に発表された2月の輸出額は前年同月比▲8.8%と3ヶ月連続で前年を下回る伸びとなり、前月（同▲6.6%）からマイナス幅も拡大している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は3ヶ月ぶりの拡大に転じるなど底打ちの兆しがうかがえるものの、中期的な基調は減少傾向で推移するなど頭打ちの流れが変わる状況とはなっていない。機械製品関連や宝石関連の輸出額が底打ちしたことが影響している一方、商品市況の調整の動きを反映して石油製品関連に下押し圧力が掛かっているほか、縫製品関連の輸出額も鈍化傾向が続くなど、世界経済の減速懸念の高まりが輸出の重石になっているとみられる。一方の輸入額は前年同月比▲8.2%と3ヶ月連続で前年を下回る伸びとなり、前月（同▲3.6%）からマイナス幅も拡大している。前月比は8ヶ月ぶりの拡大に転じるなど底打ちの兆しがうかがえるものの、中期的な基調は減少傾向で推移するなど輸出同様に頭打ちの状況が続いている。原油関連や宝石

関連の輸入額の押し上げの動きが輸入全体の底打ちに繋がる一方、機械製品関連をはじめとする幅広い分野で下振れする展開が続くなど勢いに乏しい状況が続いている。結果、貿易収支は▲174.32億ドルと前月（▲177.43億ドル）から赤字幅はわずかに縮小している。

図2 IN インフレ率の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

図3 IN 貿易動向の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

[韓国]～2月の失業率は60代以上の改善で過去最低に並ぶも、若年層の雇用環境は一段と厳しさを増している～

15日に発表された2月の失業率（季調済）は2.6%となり、前月（2.9%）から▲0.3pt低下して昨年8月に記録した過去最低水準に並んでいる。失業者数も前月比▲9.9万人と前月（同▲4.5万人）から2ヶ月連続で減少しており、年代別では60代以上の高齢層を中心に減少していることが影響している。一方、雇用者数は前月比+27.7万人と前月（同▲2.6万人）から4ヶ月ぶりの拡大に転じるなど底入れしており、年代別では10代や20代など若年層を中心に減少する動きがみられる一方、60代以上の高齢層を中心に拡大の動きを強めていることが影響しており、雇用形態別でも非正規雇用を中心に拡大の動きが強まり、労働者に占める非正規比率も上昇している。労働力人口も前月比+1.8万人と前月（同▲0.7万人）から2ヶ月ぶりの拡大に転じており、年代別では10代や20代などで減少する一方で60代以上における拡大の動きが全体を押し上げており、こうした動きを反映して労働参加率は64.2%と前月（63.8%）から+0.4pt上昇するなど労働市場への参加意欲が高まる動きがみられる。しかし、10代と20代など若年層に限れば2月の失業率は6.4%と前月（6.2%）から▲0.2pt低下しているほか、労働市場への参加意欲の後退を反映して労働参加率も49.2%と前月（49.6%）から▲0.4pt低下するなど雇用を取り巻く環境は厳しさを増している様子がうかがえる。今後は足下の輸出や住宅市況の低迷の動きを反映して一段と調整圧力が強まる可能性も予想されるなど、実態は数字と乖離していると捉えられる。

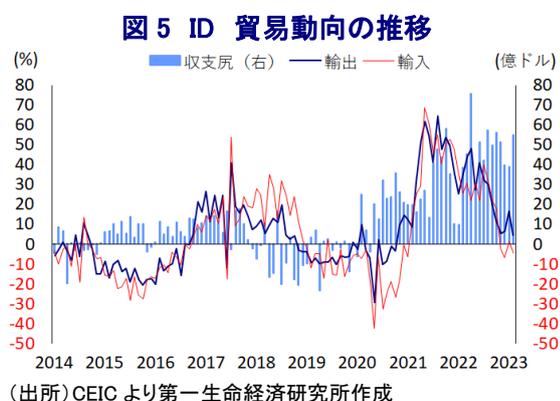
図4 KR 雇用環境の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

[インドネシア]～商品市況の調整により輸出入ともに下振れが続くも、輸入減を受けて貿易黒字幅は拡大～

15日に発表された2月の輸出額は前年同月比+4.51%となり、前月（同+16.43%）から伸びが鈍化している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月連続で拡大するなど底打ちの兆しはうかがえるものの、中期的な基調は引き続き減少傾向で推移しており、頭打ちの流れが大きく転換している状況にはないと捉えられる。国際価格の下落の動きを反映して原油や天然ガス関連の輸出額に下押し圧力が掛かる動きがみられるほか、農産品や工業製品、鉱物資源関連など幅広く輸出が下振れしており、世界経済の減速懸念の高まりが重石になっている様子が見え始める。一方の輸入額は前年同月比▲4.32%となり、前月（同+1.27%）から2ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じている。前月比も2ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせている上、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの動きを強めている。国際価格の下落の動きを反映して原油や天然ガス関連の輸入額が下振れしているほか、これら以外の輸入額も大きく調整するなど足下の景気が頭打ちの様相を強めている可能性がある。結果、貿易収支は+54.78億ドルと前月（+38.81億ドル）から黒字幅が拡大している。



[フィリピン]～世界経済の減速を受けて輸出入が下振れするなか、移民送金にも同様に下押し圧力が掛かる～

14日に発表された1月の輸出額は前年同月比▲13.5%と2ヶ月連続で前年を下回る伸びとなり、前月（同▲7.7%）からマイナス幅も拡大している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も3ヶ月連続で減少している上、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの動きを強めている。財別では、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連のほか、化学製品関連の輸出も下振れしているほか、商品市況の調整の動きを反映して鉱物資源関連や農作物関連の輸出も弱含むなど、総じて輸出に下押し圧力が掛かっている。国・地域別でも、春節連休の影響も重なり最大の輸出相手である中国向けが下振れしていることに加え、米国向けや欧州向けといった先進国向け、ASEANなどアジア新興国向けにも総じて下押し圧力が掛かるなど、世界経済の減速懸念の高まりが輸出の足かせとなっている。一方の輸入額は前年同月比+3.9%となり、前月（同▲9.6%）から3ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じている。前月比は5ヶ月ぶりの拡大に転じるなど頭打ちが続いた流れに底打ちの兆しはうかがえるものの、中期的な基調は減少傾向で推移するなど大きく流れを変化させる状況とはなっていない。電子部品関連の輸入は引き続き弱含む展開が続く一方、原油をはじめとするエネルギー資源関連の輸入に底打ち感が出ていることが輸入全体の動向に影響を与えている。結果、貿易収支は▲57.39億ドルと前月（▲45.03億ドル）から赤字幅が拡大している。

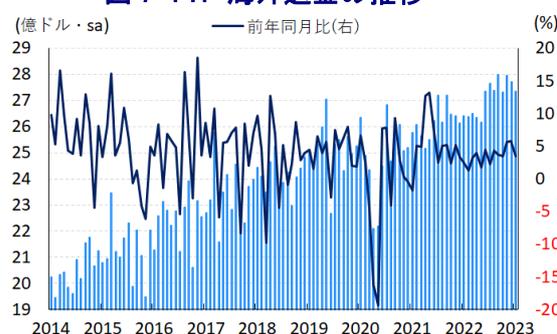
15日に発表された1月の海外移民による送金流入額は前年同月比+3.5%となり、前月（同+5.8%）から伸びが鈍化している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月連続で減少しているほか、中期的な基調も減少傾向に転じるなど頭打ちの動きを強めている。なお、国際金融市場においては昨年末以降に米ドル高が一服しており、そうした動きを反映して通貨ペソ相場は底入れするなどペソ建てで換算した送金額に下押し圧力が掛かるなど、GDPの約1割に相当する移民送金は家計消費をはじめとする内需を下支えするなか、物価上昇による実質購買力への下押しも重なり重石となることが懸念される。景気の頭打ちが懸念される状況を反映して全体の4割を占める米国からの流入に下押し圧力が掛かっているほか、国際原油価格の調整の動きを受けて中東からの流入も鈍化している上、欧州からの流入も下振れするなど全般的に移民送金が頭打ちの動きを強めている様子がうかがえる。

図6 PH 貿易動向の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

図7 PH 海外送金の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

[マレーシア]～世界経済の減速懸念の高まりを受けた外需下振れを警戒して、幅広い分野で生産に下押し圧力～

13日に発表された1月の鉱工業生産は前年同月比+1.8%となり、前月（同+2.8%）から伸びが鈍化している。前月比も▲2.38%と前月（同▲2.00%）から2ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの動きを強める展開をみせている。分野別では、鉱業部門の生産が一段と下振れする展開が続いているほか、世界経済の減速懸念の高まりを反映して製造業の生産も大きく下振れしているほか、幅広い経済活動が低迷していることを受けて発電量にも大きく下押し圧力が掛かるなど、すべての分野で減産圧力が強まっている様子がうかがえる。

図8 MY 鉱工業生産の推移



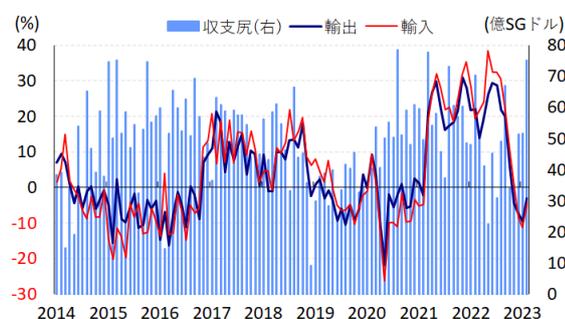
(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

[シンガポール]～世界経済の減速懸念の高まりを受けて、輸出入双方で一段と下押し圧力が掛かる展開～

17日に発表された2月の非石油輸出は前年同月比▲15.6%と5ヶ月連続で前年を下回る伸びとなる

も、前月（同▲25.0%）からマイナス幅は縮小している。前月比も▲7.96%と前月（同+0.92%）から2ヶ月ぶりの減少に転じている上、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの動きが続いている。主力の輸出財である電子部品関連や電気機械関連のほか、化学製品関連など幅広い分野で輸出に下押し圧力が掛かる動きがみられる。原油関連を併せた総輸出額も前年同月比▲3.0%と4ヶ月連続で前年を下回る伸びとなるも、前月（同▲9.6%）からマイナス幅は縮小している。前月比も▲5.6%と前月（同+0.5%）から3ヶ月ぶりの減少に転じている上、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの動きが続いており、世界経済の減速懸念の高まりが輸出の足かせになっている。一方の輸入額は前年同月比▲4.5%と4ヶ月連続で前年を下回る伸びとなるも、前月（同▲11.2%）からマイナス幅は縮小している。ただし、前月比は▲7.2%と前月（同▲1.0%）から7ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向で推移するなど輸出同様に頭打ちの動きを強めている。輸出の低迷に加え、国際商品市況の調整の動きも重なり全般的に輸入額に下押し圧力が掛かっている。結果、貿易収支は+75.10億SGドルと前月（+51.57億SGドル）から黒字幅が拡大している。

図9 SG 貿易動向の推移

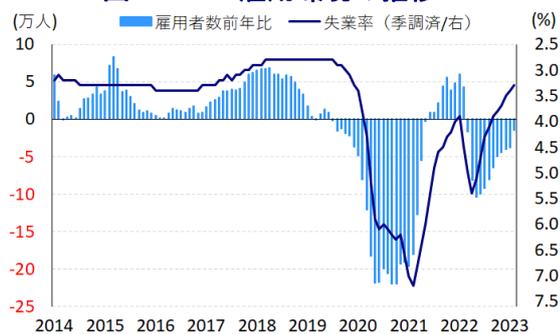


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[香港]～ゼロコロナ終了による経済活動の正常化を反映して幅広い分野で雇用を取り巻く状況は改善している～

16日に発表された2月の失業率（季調済）は3.3%となり、前月（3.4%）から0.1pt改善している。失業者数は前年比▲4.6万人と21ヶ月連続で前年を下回る推移が続いている上、前月（同▲1.9万人）からペースも大きく加速するなど減少の動きが強まっている様子が見え始める。一方の雇用者数は前年同月比▲1.4万人と12ヶ月連続で前年を下回る推移が続いているものの、前月（同▲3.8万人）からマイナス幅は縮小するなど底打ちの動きが進んでいる上、不完全雇用者数も同▲4.1万人と8ヶ月連続で前年を下回る推移が続くとともに前月（同▲1.8万人）からマイナス幅も拡大するなど、雇用を巡るミスマッチの解消が進んでいる様子も見える。中国本土におけるゼロコロナ終了を受けた経済活動の正常化が進んでいることを反映して、小売関連や観光関連、外食関連で改善の動きが続いている上、運輸関連や娯楽関連などでも雇用に改善の動きが広がるなど、全般的に改善の動きが進んでいる。

図 10 HK 雇用環境の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以 上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

